

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年2月27日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0871100178		
法人名	株式会社 メデカジャパン		
事業所名	水海道ケアセンターそよ風	ユニット名	さくら
所在地	〒303-0034 茨城県常総市水海道天満町1785-1		
自己評価作成日	平成23年7月20日	評価結果 市町村受理日	平成24年2月24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成23年9月14日	評価確定日	平成24年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>理念に掲げる通り、この町で暮らせる支援をさせていただいております。 開設当初より、町内会に加入し地域との交流を活発に行っております。 7月の祇園祭には神輿・山車が裏通りまで来て下さり、昔からの慣わしの行事を見物します。 利用者の皆様の目の輝きが一層美くなる瞬間を職員は見逃しません。 正月には獅子舞に健康を祈り年の初めを祝います。 伝統芸能の盛んなこの土地で暮らせることをずっと支援していきたいと思っております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>理念のほかに毎年作成するスローガンをもとに、利用者一人ひとりが住み慣れた地域で孤立することなく共存して生活ができるよう地域との交流に努めている。 法人は職員の段階に応じた研修や資格取得を促進し、介護力のレベルアップを図っている。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえ新たな理念を掲げ職員間で共有し地域に出て行く、または、地域の方が気軽に立ち寄れる支援をしている。利用者とは日々の生活の中で理念について話す機会を作っている。	利用者が自分らしく地域の中で暮らしていくため、地域密着型を意識した事業所独自の理念を全職員で話し合い作成するとともに、各ユニットや玄関、エレベーターに掲示している。 センター長は全体会議の場において、理念の実践状況を確認したり、理念の意義について職員と話し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の中には町内の方が入居しており、老人会の方や友人が時々訪ねて来られる。また、町内の食堂からその日に食べたい物を選び出前を頼み、食べる事も楽しみの一つとなっている。その他、市内一斉清掃には職員と共に積極的に参加し、ご近所の方々と交流している。	自治会に加入し、利用者は職員と一緒に地域の清掃活動や地域の祇園祭り、新年の獅子舞などの催しに参加している。 事業所で開催する夏祭りや文化祭に地域の人々を招待し、積極的に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議開催時等、認知症の人の理解が得られるように周辺症状、中核症状について具体的な話をし、支援の方法をお伝えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に必ず開催し、前月、当月のサービス内容及び利用者の健康状態や地域参加報告、更に外部評価が行われた際にはその取り組み状況、結果報告を行い参加者にはご意見を頂いている。	運営推進会議は市職員参加のもと2ヶ月に1回開催し、参加人数の工夫と会議の充実を図るため区長や民生委員ばかりでなく老人会にも参加を呼びかけている。 会議では利用者の状況や行事報告のほか、事業所がかかえている問題点を話し合ったり、家族等からの要望を汲みあげ、サービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の窓口も介護保険課から介護長寿課と改名し担当者が以前よりも明確になり、相談がし易くなった。利用者の健康状態が悪化した際等に、入居の継続に関しての相談にのってもらっている。	市が主催するグループホーム連絡協議会に参加し、情報交換をしている。 市担当者や介護保険認定調査員に事業所の状況を報告したり、疑問点などを相談している。 地域包括支援センターからの急な受け入れ要請に対して迅速に対応するなど、互いに協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居契約時に身体拘束をしない取り組みを実践していることを説明している。身体拘束の具体的な行為に関しては正しい理解が得られるよう、研修を行っている。また、日々の業務の中でも身体拘束をしないケアの実践をしている。	新入職員には必ず身体拘束排除に向けた事業所の方針を指導しているほか、年間研修計画に身体拘束や虐待防止に関する内容を組み入れて全職員に共通認識を図り、身体拘束をしないケアを目指している。 玄関は常に開放しているが、事業所は2階にあるため2階の階段口と非常口は危険防止の観点から家族等の承諾を得て施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルがあり、職員はマニュアルを基に研修を必ず行っている。利用者が生活する中で職員は「気付く」ことを意識するようにし、管理者は気付いたらひとりで抱え込まずに、上司に相談することを伝えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の中に権利擁護の制度を活用されている方がいる。入居時に担当者とは綿密な話し合いがされ、利用者が安心して暮らせるよう、管理者は職員全員に制度の必要性を説明し、支援日には担当者が利用者と気持ちよく過ごせる支援をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には説明に理解が得られるよう、声のトーン、ゆっくり話すこと等に配慮し、何か不明なことはないかその都度尋ねることで、納得していただけるように図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは日常的な会話の中で意見があった場合、家族からは面会時等に意見や要望が言えるよう、職員は積極的に話しかけ会話の中から何か得られるように働きかけている。また、運営推進会議には家族が必ず参加しており、意見交換を行い運営に反映させている。	職員は意見を出し難い利用者に配慮し、日常の会話や表情、行動から要望を把握するように努めている。意見箱を設置するとともに無記名の家族アンケートを実施しているが、家族等からの意見が少ないことから、年2回開催する家族会や面会時に職員から積極的に話しかけ、意見や要望を聞き出せるよう努め、出た意見等を運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ホーム会議が開催され、業務改善やケアカンファが行われている。職員間で活発に意見交換がされ、新たな提案があった場合耳を傾けその提案が反映できるように、援助している。	センター長や管理者は毎月開催する全体会議で職員の意見を聞き、必要に応じて法人のブロック会議で問題提起をするとともに意見交換を行い、出た意見等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パート、契約の雇用形態の職員に契約更改制度があり、契約期間満了前に面談を行い、継続の意思を確認し、勤務状況良好の者には職種ごとの評価チェック表を基に、給与の見直しがされる。また、正社員登用制度が年2回ある。正社員は人事考課制度により給与の見直しがされる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修は毎月実施している。その他にも随時行うこともある。外部研修は職員の経験年数により内容を選択し、なるべく多くの職員が学べるよう、育成に力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県内には系列の9つの事業所があり、内7つの事業所がグループホームを運営しており、毎月委員会として集合し、サービスの質向上についての会議を行っている。また、市内では常総市グループホーム協議会があり、情報を交換できる場がある。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者ひとり一人の生活暦を把握すると共に、入居後の生活の中で楽しみごとや得意なことに取り組めるよう支援している。不安を取り除けるように、声掛けやコミュニケーションを大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には入居後数日が経過した段階で生活の様子をお伝えし、身体状況で新たなことが解った際には、自宅で生活していた様子を更に確認し、利用者の健康状態の把握に努めている。家族が面会に来られた際には職員から積極的に話しかけ、良い関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後一定の期間は利用者の状況の把握と関係作りの為、細かく記録をとることを義務付けており、利用前の実態調査では不明だった事柄等家族に確認しながら、必要なサービスがあれば提案している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の希望に沿った援助を心がけ、利用者からの学びを日々の生活に活かすとともに、一緒に行った家事作業に感謝の言葉を添えるなど、互いに支え合う関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた際には笑顔でお迎えし、必ずコミュニケーションを取るよう心がけている。会話の中で利用者の生活状況を伝え、職員と一緒に利用者を支えていく関係作りができるように働きかけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や老人会の方等が面会に来られた際、職員は歓迎しているという気持ちが伝わるよう笑顔でお迎えし、利用者が寛ぎたい場所でゆっくりお茶を飲み会話をしている。また、今まで通っていた美容室へずっと通えるよう送迎、その他の援助の他、親戚、友人への連絡が取れるよう援助している。	職員は利用者の生活歴や生活習慣を尊重し、行きつけの美容院を継続利用したり、墓参りや地元の老人会に定期的に出かけられるように支援をしており、利用者を取り巻く人や場所との関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者ひとり一人の性格や社交性を踏まえ、気の合う仲間が出来るよう職員が間に入り、話すきっかけを作ったり、互いが良いところをアピール出来るよう支援している。利用者の中には以前からの知り合いだったり、同級生だったりした事が、何十年もの時を経て解った方もいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院となり、ホームに戻る事が困難になった場合でもそよ風に戻りたいという希望が多く、ご本人の容態が安定したら、いつでもご相談に応じられる体制があることを家族にお伝えしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中で本人の希望や意向等を引き出せるように、職員は常に利用者寄り添い些細な事柄でも、聞き逃さぬよう心がけ必要な援助をしている。そして、本人が自己決定が出来るような場面を作り、それを支援している。	職員は利用者と生活を共にする中で、利用者の表情や言動、しぐさから思いや意向の把握に努めるとともに、食事面では中華バイキングや好きな物を選んでもらい出前を取るなど、できるだけ利用者が自己決定できるように様々な場面づくりをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族やケアマネジャーから生活習慣に関しての情報収集をしっかりと行い、職員間で情報を共有し、利用者一人ひとりがこれまでの生活が継続できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者全員がホーム中心の日課にそって生活するのではなく、それぞれの過ごし方があり個々のペースに職員が合わせることで、穏やかな生活を送っている。全利用者が高齢であるため、できること、できないこと、好きなこと、嫌いなこと等個人差が大きいが個々の有する力を引き出すことを心がけている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した介護計画を作成するため定期的なケアカンファの他、利用者の状態が変化した場合にも随時開催している。ケアカンファでは職員個々の「気付き」を尊重し、介護計画に活かしている。	3ヶ月毎にモニタリングを行っている。介護計画は計画作成担当者が支援経過記録を確認するとともに個別にカンファレンスを行い、適正な介護サービスが提供されているかどうかを評価したうえで、現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日その日の変化に気づき口頭で申し送りをし、個人記録に残し職員間で情報共有している。直ぐに援助が必要であれば実践し、ケアカンファの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者家族から宿泊の希望があった際、急な場合でも要望に応じている。また、通院の要望にも対応している。その他、食事の時間帯に面会に来られた家族には利用者と一緒に食事を召し上がって頂くこともある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に入会し、町のイベント情報が詳しく解るよになっている。新年の獅子舞や7月の祇園祭等の大きなイベント前には、来所前に連絡を下さり毎年の恒例行事を町内の方と一緒に楽しんでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を重視した上で決定し、利用者によっては2ヶ所の病院を受診している方もいる。入院が必要になった場合、情報提供し、退院時には診療情報提供書をいただいている。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医への受診を支援するとともに、協力医療機関の医師による月2回の訪問診療や年1回の定期健康診断を支援している。 複数の医療機関を受診している利用者があり、それぞれの医療機関に健康状態を伝え、検査や薬が重複しないように配慮している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関が月2回往診して下さる他、利用者の容態に変化があった際には医師に直接連絡を取り、指示をいただける体制がある。また、ホームの看護師やデイサービスの看護師にも相談できる体制がある。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、できる限り毎日面会に行くことで精神面での支えになるよう支援している。その際、病院関係者に状況提供してもらい、早期退院が出来るように働きかけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居相談時に終身ではないことを説明し、理解を得た上で入居していただいている。重度化し全介助になった場合でも身体状況に応じ、可能な限りホームで対応できるよう、主治医に相談をしチームで援助している。その際には、家族への情報提供を小まめに行い、職員間でも緊張感を持って対応し、利用者が1日でも長くホームで生活できるよう支援している。	事業所は看取りは行わない方針であることを利用相談時や契約時に利用者や家族等に説明し承諾を得たうえで利用を開始している。 重度化した場合でも利用者や家族等の要望を受け、主治医と相談しながら利用を続けるケースがあった。 職員は重度化や終末期の対応マニュアルを基に対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は利用者の急変時に備え、応急手当や初期対応に関して日常的に話し合いを行っている。また、急変時に看護師が不在でも、デイサービスの看護職員が対応できる体制があり、対応時はしっかりそれをサポートし、次に活かせるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者が中心となり、昼間、夜間をそうていした避難訓練を行っている。地域の人々には運営推進会議を通じ区長さんや町内の民生委員さんに協力が得られるよう働きかけを行い、承諾を得ている。	消防署指導のもと防火管理者が中心となり、年2回夜間想定での避難訓練や設備点検、救急法の講習会を実施するとともに、実施記録を作成し課題を話し合っている。 災害時に備えユニット毎に米や缶詰、飲料水、毛布、防空頭巾などを備蓄している。 数名ではあるが避難訓練に近隣住民の参加を得ており、地域との協力関係を築くよう取り組んでいる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々に合わせた言葉掛けや接し方で援助している。何か失敗があったり、トイレ誘導する際など、周囲に知られないようさりげない対応を行っている。また、個人記録、その他の書類等利用者や面会者の目に触れない取り扱いを徹底している。	職員は入浴や排泄、トイレ誘導時には利用者の尊厳を大切に声かけや対応に努めている。 契約時に利用者や家族等に個人情報保護規定に関する説明を行い、事業所便りへの写真掲載や運営推進会議などで介護計画や個人情報を必要最小限の範囲で使用することについて、書面で同意を得ている。 個人情報に関する書類は事務室で保管し、情報の漏洩防止に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者の話に耳を傾け、職員との信頼関係の中で思いや希望を表せる場面を作れるようにしている。おやつや飲み物など、その都度希望を聞き利用者によっては選択肢を提示し、自己決定の場面を作っている。	/		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに応じ対応している。ゆっくり寝ていたい、お粥にしてほしい、買い物に行きたい等の希望にできるだけ即応し、職員側の決まりごとを優先させない援助を心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びは利用者の好みを聞き職員が援助しながら行っている。利用者の中には一日に何回も着替えをする方がおり、以前からの生活習慣で入居してからも忘れる事がなく着替えをされている。男性利用者は毎日、髭剃りを自ら行いその他の身だしなみにも気を配っている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理中に味見をして頂いたり、食欲がわくよう盛り付けに工夫している。昼食は職員も一緒に食べており、和やかな雰囲気となっている。食後は下膳や皿拭きなど職員と一緒にやっている。また、月に1度町内の飲食店から出前を取り食べたい物を選んで召し上がって頂いている。	法人で作成した献立に基づき併設する通所介護事業所の厨房で一括して調理をしており、利用者は普段は調理以外の盛り付けや配膳、下膳をしているが、日曜日は事業所で食事を作っているため、できる範囲で職員と一緒に調理をしている。 毎月の献立に郷土料理や中華バイキング、洋食フェアなどを取り入れたり出前や外食の機会を設け、利用者の好みの物が食べられるように支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	詳細にカロリー計算がされ栄養バランスの摂れた献立を提供し、利用者一人ひとりに応じた調理方法で提供している。また、水分摂取に関しては特に注意を払い脱水症状が起きないように、小まめに好みの物を飲んで頂けるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは自分で出来る方は見守りで、援助が必要な方には職員が援助を行い、口腔内を清潔に保てる支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンを把握し、尿意、便意のある方には随時、ない方には排泄の失敗を極力減らす為、個々の時間帯に応じトイレ誘導を行っている。	排泄の自立に向け日中はできるだけリハビリパンツを使用するようにしており、おむつの使用者に対しても可能な限りトイレでの排泄を心がけている。 水分摂取チェック表と排泄チェック表をもとに定期的な声かけとトイレ誘導をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に乳製品や食物繊維の多い食品を取り入れることと、毎日運動を行い自然排便がされるよう努めている。便秘になってしまった場合、各個人に処方されている内服薬にて対応することもある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望やタイミングに合わせ援助している。男性利用者の場合女性より先に入らないと気がすまない傾向があり、その配慮をしている。入浴時は洗える所は自分で行ってもらい、出来ない部分への援助をすることを職員間で統一している。	利用者が1日おきに入浴ができるよう毎日午後から入浴の準備をしているが、利用者の希望や体調に応じて回数は様々である。 入浴を拒む利用者にはタイミングを見計らって再度声をかけたり、職員を替えて声かけするなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転が起こらないように一人ひとりの生活リズムを把握した上で、昼寝をすることを日課として取り入れ、それによって、夜間ぐっすり眠れるようになった利用者もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者一人ひとりが使用している薬の内容を理解し、服薬の支援を行っている。処方の変更された場合は特に、体調の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりが役割を持ち、料理の味見、洗濯物畳み、ホーム玄関の清掃、食器拭き等生活歴を活かした役割を持っている。また、気分転換にドライブに出掛けたり、室内では自身の好きな活動を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に応じて買い物や外食に出掛けている。ドライブには皆で行き季節を感じて頂いている。特に花見の時期にはできる限り毎日色々な名所へ出掛けている。また、近隣の商店にも散歩がてら立ち寄り、地域交流を図っている。	利用者は日常的に散歩に出かけ自宅に立ち寄ったり、天気の良い日は1階のベンチでお茶を飲みながら外気浴を楽しんでいる。 花見や神社参拝に出かけたり、利用者の希望にそって買い物や外食に月1回から2回程度出かけられるように支援をしている。 長時間の歩行が困難な利用者でも、車椅子やリフト車を使用してドライブに出かけられるように支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は利用者によっては所持し、孫、ひ孫にお小遣いをあげるのが楽しみである方もいる。買い物に出掛けた際は、ご自身が支払う援助をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ連絡を希望した場合、事務室の電話を使いかけてもらっている。また、利用者の中には携帯電話を所持している方がいて、時々、家族へ電話をかけている。家族と繋がっていることを実感し、安心して暮らせる支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの障子が強い日差しを遮り、利用者は落ち着いて過ごすと共に、ソファで休息し読書など自由に利用している。廊下は広く、車椅子の利用者が自由に歩行できる。風呂やトイレなど、必要な箇所に手すりが設置され安全に配慮されている。	廊下や居間、食堂には利用者が作成した書道や俳句、季節の作品、手作りの日めくりカレンダーが飾られている。 全ての窓に障子が備え付けられており、陽光を調整しながら居心地よく過ごせるよう配慮をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室はドアの開閉が自由であり、独りの空間が作れるようになっている。ソファや各テーブルでは利用者同士が自由に会話、新聞を読む、囲碁をするなど思い思いに過ごしている。独りである利用者には歌本を持っていき、一緒に歌を歌うこともある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が入居前まで使っていた布団を使用し、使い慣れた食器、生活用品等を持ち込み自身の部屋であることを認識できるよう、家族にも協力して頂いている。また、家族の写真を飾っている方もおり、居心地良く過ごせる工夫がされている。	利用者がテレビや馴染みの家具を持ち込んだり家族等の写真を飾っているほか、ベッドを使用したり床にマットレスや布団を敷いて寝るなど、個性のある居室となっている。二人部屋はないが、夫婦で入居する場合は二部屋を居間と寝室に使い分けられるよう配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段に続くドアや汚物室、浴室には危険を回避する為、鍵を掛けている。その他のスペースはなるべく自由に歩けるようにしている。ベランダには洗濯物、鉢植えの草花等で足元が危険である為、職員が付き添い外の空気に触れ気分転換ができる。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 水海道ケアセンターそよ風

作成日 平成24年2月23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		特にございません			
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。